

高等部第1学年 自立活動学習指導案

日時 令和○年○月○日 (○)

○○:○○～○○:○○

場所 ○○○

指導者 ○○ ○○

1 主題名「好きなことをとことんやってみよう」

2 主題設定の理由

(1) 生徒観

省略

(2) 主題観

入学してから2ヶ月の間で、実態把握や関係作りを進めている際、雑談の中から初めて出た自発的な発言に注目した。本人の持つ障害特性から、コミュニケーションの困難さがあり、受け身な態度が多いが、本人の興味関心が高い音楽の話になったとき、「どんな音楽聴きますか」「楽器は何をしていますか」などの主体的な質問があった。このことから教員と共通の趣味をきっかけに、楽しさの共有・共感を大切にしながら、信頼関係作りを行うとともに、できる喜びや達成感を味わわせたり、自己肯定感を高めたりしていきたい。また、双方向コミュニケーションの経験を積み重ねながら、伝え合う喜びや楽しさを味わわせることを目標にしたい。

(3) 指導観

本人が興味関心のある音楽を題材にすることで、主体的に活動できるきっかけを作り、共通の趣味を通じてコミュニケーションの経験となるように学習を進めていく。

まず、本生徒は普段から緊張状態であり、身体の動きにぎこちなさがある。そこで、好きな楽器を上手に演奏することを目的としたストレッチを行う。向かいあい、大きく呼吸しながらリラックスすることを意識させ、伸ばす・回す・広げることを伝えながら行う。この際、背中、肩、腕、手首、指にポイントを絞り、心身のリラックスを図りながら、次の活動につなげていく。

次にエレキベースの演奏練習を行う。この活動は本人がロックバンドの話題から楽器の演奏に興味を示したことに由来し、家庭訪問において、保護者から自宅でエレキギターを独学で練習しているが、うまくいっていないようだとの話があり、さらに教員がエレキベースであれば簡単な奏法を指導できる状況だったことから、本人に確認したところ、「やってみたい」と意欲を示したことで内容として取り入れることにした。基礎練習・実践練習の2本立てとし、基礎練習では、運指をイメージできるように手本を見せながら取り組む。この際、同時にタブラチュア譜を提示することで、譜面を見ながら自主的に活動できるようにしていく。実践練習では、童謡「さくら」を演奏する。これは、基礎練習だけでは本人に達成感が感じにくいいため、簡単に誰もが知っている曲のフレーズを弾くことで、「できた」と感じるができることと考える。また、仮に他者へ披露した際、聞いている人もできていることを共感しやすいのではないかと

う。さらに、本人の好きなことを介して教員とやりとりすることで、他者とのかかわりの楽しさを感じてほしい。自分の演奏を確認できるように、モニター用イヤホンを使用する。

最後に、ロックバンドの写真や映像を元にテーマトークを行う。ここまでの授業において、「好きなロックバンド」「好きな曲」などのYES・NOでは答えることができないテーマで話をしたが、ゆっくり考えながら、答えることができていく。特に好きな曲を質問した際に数曲答えた後、「先生、(好きな曲の) 名前が分かりません」と、まだ好きな曲あるが思い出せないと伝えることができた。そのときに一緒にどの曲か探してみようと対話し、思い出せたときにすっきりした表情を浮かべた。こうした経験を積み重ねることで、コミュニケーションの喜びを味わってほしい。

3 指導目標

主題目標	プラン B 目標
・興味・関心をきっかけとした人間関係の形成を進め、好きなことを深めることで達成感を味わうとともに、自己肯定感が持てるようになる。	・集団生活の中で、自分の気持ちを表現できるようにする。 ・集団生活に対応できる下地を養う。

4 指導計画（11時間扱い・・・本時3／11）

過程	学習内容	時間
I	ストレッチ、ベース練習、テーマトーク（本時）	5
II	ストレッチ、ベース演奏、テーマトーク	4
III	ストレッチ、ベース演奏（合奏）、テーマトーク	2

実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ

学部・学年	高等部1 学年
障害の種類・程度や状態等	省略
事例の概要	・興味・関心をきっかけとした人間関係の形成を進め、好きなことを深めることで達成感を味わうとともに、自己肯定感が持てるようになる指導。

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
省略

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
*各項目省略					

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
・不安があると、声をかけられるまで固まってしまう（心・人・コ） ・見通しがもてないことや不安が高まると、登校に対して後ろ向きになってしまう。（心） ・活動の経験が少なく、様々な活動に対して不安が先行してしまう。（心・環・身）

- ・手指の動きにぎこちなさがあり、作業スピードがゆっくりである。(身)
- ・好き嫌が多く、メニューによっては給食をほとんど食べられないことがある。(健)
- ・注目されることが苦手で、緊張が高まると顔を伏せ固まってしまう。(心・人・コ)
- ・自分の興味を共有できる場面が少ない(心・人・環・コ)

②－３ 収集した情報①を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

- ・肯定的な自己理解を進め、自分の適性や役割について意識できるようにすることで、卒業後の進路や将来への生活について考えられるようになる。
- ・高等部卒業後に企業等に就労することを見据え、困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法を段階的に身に付ける必要がある。
- ・余暇活動の充実及び拡大を段階的に行うことで、生活の中に楽しみや目的を見出し、就労意欲につなげていく必要がある。

③ ①をもとに②－１、②－２、②－３で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・集団の中で、作業に取り組むことができる。
- ・不安に感じたときの落ち着かせる方法を身につける。
- ・身体・手指の巧緻性を高め、スムーズに作業することができる。
- ・余暇活動を充実させ、生活の中に楽しみを見つける。

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

本人の障害特性による興味関心の狭さから、他者との関わりが苦手であり、集団活動に不安やストレスを感じている。また、失敗経験から、見通しのもてない活動や経験のないことには緊張感や不安が一気に高まってしまう。そのため、自分の興味関心がある趣味や余暇活動を通して、自分の要求や考えが伝わったり、相手の意図を受け止めたりする双方向のコミュニケーションが成立する成功体験を積み重ねることで自ら積極的に人と関わろうという意欲を身に付けてほしい。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として ⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

- ・興味・関心をきっかけとした人間関係の形成を進め、好きなことを深めることで達成感を味わうとともに、自己肯定感が持てるようになる。

指導目標を達成するために必要な項目の設定 ⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	２－（３）	３－（１） ３－（３）	４－（１） ４－（２）	５－（５）	６－（１）

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

- ・＜活動をスムーズに行うためのリラクゼーションにつながるように＞心（３）と身（５）を関連付けて配慮事項として設定した指導内容が⑧アである。
- ・＜余暇活動の充実と成功体験による自己肯定感につながるように＞心（３）と人（１）（３）と身（５）とコ（１）を関連付けて配慮事項として設定した指導内容が⑧イである。
- ・＜興味のある事柄から他者とのコミュニケーションにつながるように＞心（３）と人（１）（３）とコ（６）を関連付けて配慮事項として設定した指導内容が⑧ウである。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定 ⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

ア 背中、肩、腕、手首、指のストレッチを行う。	イ エレキベースを演奏することを通して、教員とやりとりしたり、楽しさを味わったりする。	ウ 写真や映像、音楽をテーマとした対話を行い、自発的な発言を促す。
-------------------------	---	-----------------------------------

5 本時の学習

(1) 目標

- ・ストレッチしている箇所を意識し、自分の身体の感覚を確かめるとともに心身のリラックスをする。
- ・手本に沿ってベースを弾きながら、達成感を味わうとともに、教員と楽しさを共感できる。
- ・教員の意見を聞いたり、自分の考え・気持ちを相手に伝えたりすることができる。

(2) 展開

配時	学習活動	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備考
13:00	1、はじめのあいさつ	・日直が号令をかける。	
13:02	2、ストレッチ（4分） ・背中、肩、腕、手首、指	・向かい合って行う ・ストレッチを行う際、箇所に触れることで、伸びている場所を意識させる。 ・深呼吸しながらリラックスさせる。	
13:06	3、ベース練習（基礎）（5分） ・準備 ・基礎練習（右手、左手1、左手2）	・練習メニュー表と手本を提示し、運指のイメージを持たせながら行う。 ・各メニュー3回程度実施する。 ・うまくできたか、難しいところはあるかなど、質問しながら行う。	ベース いす メニュー表 楽譜
13:11	4、ベース練習（実践）（10分） ・童謡「さくら」の演奏	・楽譜を提示し、見方の確認を行う。 ・テンポを落とし、小さなフレーズごとに分割しながら行う。 ・うまくできているか、難しいところはあるかなど、適宜確認する。	
13:21	5、テーマトーク（5分） ・教室移動 ・映像を見ながら感想を出し合う （1） 本人お勧め映像 （2） 教員お勧め映像	・本人のお勧め映像を見て、よかった部分、興味を持った部分についてお互いの感想を言う。 ・教員のお勧め映像をみて、どうだったかを質問する。	P C 室 P C
13:26	6、片付け	・教室に戻り、ベースを片付ける。必要に応じて指示を出す。	
13:28	・終わりのあいさつ	・日直が号令をかける。	

(3) 評価

生徒の評価	評価
① ストレッチしている箇所を意識し、自分の身体の感覚を確かめるとともに心身のリラックスをすることができたか。 ② 手本に沿ってベースを弾きながら、達成感を味わうとともに、教員と楽しさを共感することができたか。 ③ 教員の意見を聞いたり、自分の考え・気持ちを相手に伝えたりすることができたか。	

生徒の評価 ◎：十分達成できた ○：おおむね達成できた △：達成できなかった

指導者の評価	評価
① ストレッチ箇所が意識できるよう、伸ばしている部分に触れる、言葉をかける等の支援は適切であったか。 ② 生徒が達成感を味わえるように、用意したタブ譜やモニター用イヤホンは適切であったか。また、手本の提示や言葉かけの支援は適切であったか。 ③ 使用した映像や話の進め方は、生徒からの発言を引き出すものとして適切であったか。	

指導・支援の評価 ◎：十分適切であった ○：おおむね適切であった △：適切でなかった

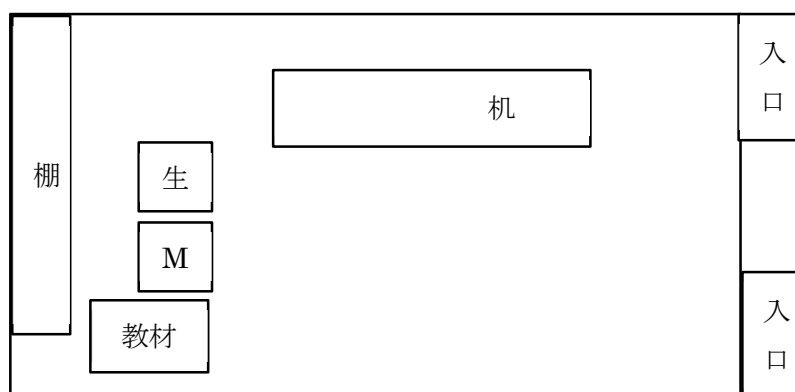
6 備考

(1) 教材・教具

エレキベース（2本）、アンプ、チューナー、ケーブル、スタンド、写真、いす（3脚）、パソコン、楽譜、譜面台

(2) 教室内配置図

1－4教室



パソコン室

